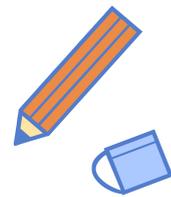


家庭学習のすすめ

学校では、決められた時間に、決められた内容の学習をします。たくさんの内容を学習するので、受け身の学習になったり、学校での学習だけではなかなか学力の定着を図ることが難しくなったりすることもあります。ですから、子どもの発達段階に応じた家庭での毎日の学習が大切であり、その取り組みが、自ら進んで学ぶ学習習慣をつけていくことにつながります。

学校では、子どもたちに家庭学習の大切さややり方について指導していますので、ご家庭でも学習習慣が定着できるようにご協力ください。



☆読書、宿題・自主学習について☆

読書

読書は、想像力を広げて心を耕すとともに、語彙や表現力を豊かにする大切なものです。幼少時からの読書習慣が大切ですから、読書に親しむ家庭の雰囲気をつくりましょう。

- ◎低学年でも、幼児期と同じように読み聞かせは大切です。
- ◎時にはテレビを消して、親子で一緒に読書を楽しみましょう。
- ◎親子で図書館に行き、興味のある本を自分で見つけさせ、利用の仕方を教えましょう。
- ◎宿題の無いときは、読書をする時間を多くとりましょう。

宿題・自主学習

- ◎宿題はていねいに確実にやらせましょう。
 - ◎自主学習の内容は親子で一緒に考えたり、担任に相談したりしてください。
 - ◎中学年ぐらいから、自主学習に取り組み始めてもよいでしょう。
 - ◎5年生では、自主学習の定着を目指しましょう。
 - ◎6年生では、中学生になるまでに自主学習の習慣をしっかりと定着させておきましょう。
- <自主学習の例>・・・あくまでも例です。自分にふさわしい内容を工夫させましょう。
- ・予習、復習（ノートの見直しや要点の整理、教科書の練習問題のやり直しなど）
 - ・前の学年の漢字の覚え直し
 - ・100ます計算
 - ・社会の歴史人物調べや地理調べ、理科の学習の関連調べ

☆家庭学習を充実させるには☆

- (1) 子どもの学習内容と理解度・定着度を知りましょう。
- (2) 学ぶ環境を整えましょう。
 - 生活習慣の調整：毎日決まった時間の確保と「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣をつけましょう。
 - 学習の場の整備：居間のテーブルなど学習する場を確保しましょう。
 - 家族の協力：学習している側でテレビは見ないなど、学習に適した雰囲気をつくりましょう。
- (3) 家庭学習を習慣化しましょう。
 - 宿題は必ずやらせ、学校での学習を定着させましょう。繰り返しの反復学習をしなければ記憶として脳に定着しません。おもしろくない勉強でも、やらなければならないものです。
- (4) 低学年はやらせて、高学年は自ら進んで（他律から自律）
 - 低学年では宿題を主に、親の主導で学習習慣を身につけさせましょう。
 - 中学年から高学年では、子どもに目標を持たせ自主的に取り組むように励ましましょう。

☆家庭学習の方法と内容、時間☆

低学年では…

目標時間：10～30分

こんな時期です…

- ・宿題を欠かさずやることで、家庭での学習習慣の基礎を身につける時期です。
- ・親子で一緒に考え方や答えを確認することで、楽しく効果的な学習となります。
- ・「やったね」「がんばったね」など、ほめることが大切です。

ポイント

- ・保護者が側に付くか、食卓やテーブルなど目が届くところでやらせましょう。
- ・宿題は、毎日必ず最後まで終わらせましょう。
- ・音読は、はっきりすらすら読めるように取り組ませ、上達したらほめましょう。
- ・漢字は、鉛筆の正しい持ち方、書き順に気をつけさせ、ゆっくりといねいに書かせましょう。
- ・計算は、答えの確認をし、間違えたら必ずやり直しをさせましょう。
- ・翌日の学習準備は、親と一緒に子どもが責任を持てるよう自分自身でやらせましょう。

中学年では…

目標時間：30分～1時間

こんな時期です…

- ・まだまだ甘えたい時期です。家族の暖かい励ましや見守りが大切です。
- ・「自分でやりたい」という自立心が芽生える時期ですが、まだ手助けが必要なこともあります。
- ・少しずつ宿題の他にも自主学習に取り組ませてみましょう。
- ・「急に勉強が難しくなった」という戸惑いや苦手意識を持つ子どもも出てきます。自信を持たせたり、意欲を膨らませたりするような励ましが大切です。

ポイント

- ・食卓やテーブルなど目が届くところでやらせましょう。
- ・音読は、漢字でつまづかないようにすらすら読めるようにさせましょう。「読み取る力」は全ての学習の基礎になります。
- ・漢字は、ていねいに、繰り返し書きながら覚えさせましょう。
- ・計算は、答えの確認をし、間違えたら必ずやり直しをさせましょう。筆算は位をそろえて書くことを意識させましょう。
- ・翌日の学習準備は、子どもが責任を持てるよう自分自身でやらせましょう。

高学年では…

目標時間：50～1時間30分

こんな時期です…

- ・「大切にされているか」「子ども扱いされていないか」に敏感な時期です。親子の話し合いを通して子どもが納得することが大切です。
- ・論理的な内容や抽象的な思考を伴う学習が増えます。
- ・得意、不得意分野が明瞭になり、大人のアドバイスにより、意欲や関心に差が出てきます。
- ・筋道を立てて考える力や広い視野で物事を見る力が必要になります。
- ・夜更かしなどの基本的な生活習慣の乱れがみられる頃です。テレビやゲームなどの時間を見直し、学習時間を決めさせて自主的に取り組ませましょう。
- ・宿題の他に、自分で決めた自主学習に取り組むことができる時期です。

ポイント

- ・音読は、文章の内容がわかるように読ませましょう。
- ・漢字は、ていねいに練習させるとともに、熟語を覚え語彙を増やしましょう。
- ・算数は、自分で答えの確かめをさせましょう。
- ・自分で決めた自主学習に取り組ませましょう。学習内容は、親子で一緒に考えたり先生に相談したりして決めましょう。問題集を持たせる場合には親子で決めましょう。
- ・翌日の学習準備は、前日に子ども自身の責任として自分でやらせましょう。

子どもに学習意欲を持たせる親の接し方

- (1) 達成感を味わえる学習をさせましょう。
 - ・宿題は時間を決めて、最後まで確実に終わらせましょう。
 - ・自主学習は、自分で立てた目標を達成できるようにやらせましょう。目標はある程度努力が必要なもので、やさしすぎる目標では満足感や意欲は高まりません。
 - ・目標の学習が終わったら、子どもの自主性を認め、それ以上は求めないようにしましょう。

- (2) ほめて意欲を高めましょう。
 - ・「よくやったね、がんばったね。」…努力や取り組みを必ずほめてやりましょう、ただし、「がんばったから〇〇を買ってあげよう」などと、ものを与えるご褒美はよくありません。
 - ・「ダメね」…できなかったことを責めても自尊心を失わせるだけで、意欲は高まりません。

- (3) 答えを教えるのではなく、考え方のヒントを与えましょう。
 - ・算数などで答えを教えるだけでは、子どもの力を伸ばすことにはつながりません。子どもに考え方のヒントを与え、自分の力で「できた」という満足感を与えると学習意欲が高まります。そのためには子どもの教科書を見て、考え方をある程度理解しておくといでしょう。

- (4) 継続させましょう。
 - ・「今日も目標どおりよくできたね。明日も頑張れるといいね。」「毎日やることは素晴らしいことだよ。」「『継続は力なり』なんて言うよ。」などと意欲を高める言葉をかけましょう。
 - ・「昨日はよく頑張ったね。今日は何をやるの?」と学習内容確認の言葉をかけましょう。

~~~~~  
「ほめてあげれば、子どもは、明るい子に育つ」  
「励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる」  
「見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる」  
~~~~~  
『子どもが育つ魔法の言葉』より抜粋
~~~~~

